

新学習指導要領の実施に向けた準備が本格化する中、学校現場は様々な課題に直面することが予測される。本コーナーでは、実践事例や有識者インタビューなどを通じて、現場の疑問や課題を解決し、自校の実践につなげる情報を提供する。

# 新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

## テーマ

# 資質・能力の育成に向けた、 ペーパーテスト改善と多面的評価

はじめに

資質・能力の3つの柱を  
育成・評価するために

ベネッセ教育情報センターは、新学習指導要領で重要視されている資質・能力の育成と評価について、教育現場での取り組み状況と先生方が抱えている課題感を調査した(図1参照)。育てたい生徒像や資質・能力の設定・検討準備は進んでいる一方、「学びに向かう力の育成と評価」「思考力・判断力・表現力を評価するための問題作成」の課題感はまだ高いままであることが分かった。今後指導要録において観点別学習状況の評価の記載が求められるようになり、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を組織的に育成・評価する取り組みがより重要視される中、育てたい資質・能力を、各教科の特性を踏まえ、学校全体でどのように指導・評価していくのか。

今回は、自校で育てたい資質・能力を踏まえ、各教科等で、それぞれ思考力・判断力・表現力の定義を策定し、ペーパーテストを含めた多面的評価に学校全体で取り組む広島県立呉三津田高校を紹介する。

図1 新課程に向けての課題感と取り組み状況

	年度	新課程に向けての課題感				新課程に向けての取り組み状況				
		特に課題に感じる	課題に感じる	あまり課題に感じない	課題はない	組織的な取り組み	多くの先生の取り組み	ごく一部の先生の取り組み	未着手	不明
自校で育てたい 資質・能力の設定	2018	27%	49%	19%	5%	30%	14%	30%	23%	4%
	2019	20%	48%	26%	6%	39%	11%	26%	19%	6%
	2020	17%	51%	25%	6%	48%	16%	24%	9%	3%
カリキュラム・マネジメント の視点による指導計画・単 元計画	2018	28%	55%	15%	2%	23%	13%	39%	23%	3%
	2019	21%	57%	19%	2%	27%	13%	34%	21%	6%
	2020	19%	56%	23%	2%	30%	16%	33%	15%	5%
「高校生のための学びの基 礎診断」などの外部アッセ シメントを活用した指導改善	2018	19%	58%	22%	2%	11%	20%	41%	21%	6%
	2019	11%	48%	36%	6%	25%	10%	28%	32%	5%
	2020	8%	43%	43%	7%	31%	14%	26%	25%	5%
思考力・判断力・表現力を 評価するための問題作成	2018	30%	56%	13%	1%	10%	19%	47%	19%	4%
	2019	29%	59%	12%	1%	13%	26%	49%	9%	3%
	2020	23%	59%	16%	1%	14%	33%	43%	6%	3%
学びに向かう力の育成と評 価	2018	25%	59%	15%	1%	11%	22%	39%	22%	6%
	2019	25%	59%	15%	1%	13%	21%	44%	17%	6%
	2020	25%	59%	14%	1%	14%	27%	39%	13%	6%
多様な活動履歴の蓄積 (ポートフォリオの活用)	2018	45%	42%	11%	2%	18%	8%	28%	44%	2%
	2019	31%	51%	17%	2%	40%	14%	36%	10%	1%
	2020	13%	53%	30%	4%	44%	19%	26%	10%	2%
各教科の観点別学習状況 の評価の導入・実践	2018									
	2019									
	2020	14%	49%	33%	4%	26%	17%	26%	23%	7%

出典 / 2020年3月実施 ベネッセ教育情報センター「学校の教育・入試改革への対応状況と意識調査」

## 実践事例

# ペーパーテスト改善で、 思考力を問い、学びを促す授業へ 広島県立呉三津田高校

広島県立呉三津田高校では、2012年度より、生徒の思考力を育成するためにペーパーテストの改善を進めている。学校として育成を目指す資質・能力を基に、各教科で思考力を定義。その上で、現在、定期考査では、思考力を測る問題を必ず1題は出題することとしている(図2)。同校のペーパーテスト改善とその先にある授業改善について話を聞いた。

**Q1** 一部の教師の取り組みになりがちな、  
思考力・判断力・表現力の育成を  
どのように学校全体に広げたのか？

**A1** 定期考査で思考力を測る問題を出すことで、  
日々の授業が変わり、思考力の育成が共通認識となる

**岡崎先生** 思考力の育成は生徒の進路実現を支援する上で重要であるという認識の下、全校的な取り組みとして、12年度から思考力を測る問題を定期考査に入れていきます。本校の生徒に必要な思考力とはどのようなものかを明らかにするため、まずは

各教科で、「本校の生徒が頭をひねる問題を作ってみよう」と、作問をスタートしました。そして、実際に作った問題を基に、「この問題ではどんな力を測れるのだろうか」と、さらに教科団で議論しました。そうして2年かけて、各教科で思考力の定

**校長**  
**大林秀則**  
おおはやし・ひでのり  
教職歴36年。同校に赴任して2年目。

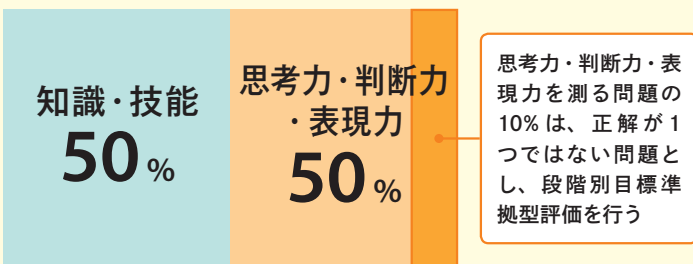
**主幹教諭**  
**岡崎友一**  
おかさき・ともかず  
教職歴25年。同校に赴任して15年目。英語科。

**教務主任**  
**川本啓正**  
かわもと・よしまさ  
教職歴10年。同校に赴任して7年目。地歴公民科。

義を固めていきました。

**大林校長** 本校は以前から、実技教科を含む全教科の定期考査で論述問題を出すのが通例であるなど、身につけた知識を断片化したまま生徒の中にどどめておいてはいけないという共通理解が教員間にありました。その上で、思考力の育成に学校全体として取り組むようになったのは、定義した思考力を測れるように、定期考査を変えたからだと思います。定期考査を変えれば、先生方の日々の授業も変わります。その結果、各教科の思考力の定義が、生徒の状況を踏まえて、毎年アップデートされるほど、思考力の育成が全教科団に浸透したのだと思います。

図2 呉三津田高校の定期考査の構成(例)



※教科等により割合に差はあるが、このような構成例を基準としている。  
\*学校提供資料を基に編集部で作成。

### 広島県立呉三津田高校

◎「質実剛健」を校訓とし、地域、日本、世界のリーダーとなる人材の育成を目指している。特に課題発見・解決型学習に力を入れ、「実践力」を育む教育を行っている。

◎設立 1906(明治39)年

◎形態 全日制・定時制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約200人

◎2020年度入試合格実績(現役のみ)  
国公立大は、筑波大、京都大、大阪大、神戸大、広島大、九州大などに122人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに456人が合格。

◎URL <http://www.kuremitsuta-h.hiroshima-ced.jp>

## Q2 思考力を測る問題を作問する力を どのようにして高めていくか？

### A2 教科、さらに学校全体で「良問」について話し合い、 生徒が思考力を発揮する場面を日々の授業につくる

**川本先生** 本校に赴任した当初は、

思考力を測る問題を作成するのに苦労しました。教科書の内容を論述させる問題であればすぐに作成できるのですが、それでは知識を問うているに過ぎません。断片的な知識を体系化して答える問題がどのようなものか、教科団の先生方との話し合いを通して深く理解できるようになったと思います。

**岡崎先生** 本校のサーバーには、過去の定期考査の問題が収められていますので、先生方は過去の問題も参考にしながら、思考力を測る問題を練り上げています。そして、各教科会でお互いが作っている問題を共有しながら、教科団として絶えず質問力を高めているのが実情です。

**大林校長** 本校では、定期考査の後で、各教科から思考力を測る「良問」を1問選び、教科を超えて共有して

います。「思考力の育成」を切り口に、すべての教師がお互いの学力観を知り、また、良問を作る同僚を尊敬し合うことができる、素晴らしい場だと思えます。

**川本先生** 思考力を測る問題が作れるようになることと、思考力を育成する授業ができることは一体であると思えます。本校の授業評価アンケートでは、生徒に「学習のねらいに沿って、授業で求められている思考力を発揮する場面があるか」「この授業は、もつと学習したくなるよう、興味・関心・意欲を湧かせてくれると思うか」を聞きます。生徒の授業の捉え方、教師の授業のつくり方も、当然変わってきます。私も世界史の授業で使用するプリントの中に、「この出来事はA国の立場からどう評価するか」など、思考を深める問いを盛り込んでいます。

図3 地理歴史科・地理Bにおける思考力を測る問題（2学年2学期中間考査）

#### 思考力の定義

社会的事象の持つ意味や事象間の関係性などについて、相対化した知識や概念、資料を根拠に多角的・論理的に説明する力

#### 授業における言語活動例（キークエスション）

なぜボツワナでは経済の多角化が進まないのか

#### 問題

地理好きの裕樹くんはいつも暇があれば、『地理統計』を読んでいます。巻末のボツワナの欄を読んでいると、政治・経済の項目に、「畜産主体の農業国だったが、ダイヤモンドの採掘により経済が発展した。輸出品はダイヤモンド、銅、ニッケル等。現在経済の多角化を進めている。」と書いてありました。これを読んでボツワナに関心を持った裕樹くんは、ボツワナの貿易品を調べてみました。調べた結果、輸出品の81.8%（2015年）がダイヤモンドであることがわかりました。その事実を知った裕樹くんが、あなたのところにやって来てこう言いました。

「なぜボツワナって経済の多角化を進めているのに、モノカルチャー経済から脱出できていないの？」

次の資料を活用し、裕樹くんの質問に答えなさい。

#### 採点基準

4	途上国が経済の多角化を進める方法として、外国資本の導入があることに気づき、それが進まない3つの要因について、提示された資料のすべてを用いて論理的に述べている。
3	途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及していない、または海外資本の導入が進まない要因を2つしか述べられていない。
2	途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及せず、海外資本の導入が進まない要因を2つしか述べていない。または、途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及しているが、海外資本の導入が進まない要因を1つしか述べていない。
1	途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及せず、海外資本の導入が進まない要因を1つしか述べていない。または、途上国が経済の多角化を進める方法としての外国資本の導入について言及しているが、海外資本の導入が進まない要因が述べられていない。
0	無答もしくは誤答

\*学校提供資料を基に編集部で作成。

獲得した知識を、時代や地域を超えて相対化させる見方・考え方を問う探究的な問題

発展途上国の中には工業化を進めるため、輸出加工区などを設置して「輸出指向型工業」を進めているところがある。工業化の進む中国やタイなどはその例である。



アフリカにおける1人当たりGNI（国民総所得）ランキング（ドル）（2015年）

1	セーシェル (14,760)
2	モーリシャス (9,610)
3	ガボン (9,210)
4	ボツワナ (6,510)
5	南アフリカ共和国 (6,050)

アフリカのおもな国の人口(万人) (2015年)

☆	エジプト	…	8,895
☆	ガーナ	…	2,767
☆	ケニア	…	4,550
☆	ボツワナ	…	219
☆	ナイジェリア	…	16,472

#### お知らせ

『VIEW21』高校版4月号にてご案内いたしましたWebセミナー「生徒の前向きな学びを引き出す指導デザイン」は2020年7月3日開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、実施を延期する運びとなりました。詳細が決まり次第、『ハイスクールオンライン』の「入試改革/新課程ページ」にてお知らせいたします。

### Q3 思考力の評価の基準はどのように策定し、生徒にフィードバックしているか？

### A3 ルーブリックを教師・生徒が共有し、思考力を育む「学び方」を生徒に語りかける

**川本先生** 各教科のシラバスには4観点の評価の割合や方法を明記し、思考力を始めとする資質・能力に関するルーブリックをシラバスとともに生徒に配布して、授業の振り返りなどに活用させています。生徒の振り返りを分析し、問いを立てる力に課題意識を持った先生が、高次な問いを立てる力を育むように授業展開を改善したケースもあります。

**岡寄先生** シラバスで示しているルーブリックは、定期考査の評価基準にも生かされます。定期考査の前には、思考力を測る問題について評価基準を作成して、それまでの授業

での理解度なども踏まえて教科団ですり合わせをします。それでも、答案を実際に採点する中では、評価基準を見直し、採点をし直すこともあります。これからの大学入試に鑑みると、生徒のために取り組むべきことだと思っています。

**川本先生** 定期考査の返却時の生徒への声かけも変わりました。「教科書では別のページに載る事象のつながりを定期考査で問うたように、今後の授業でも知識の体系化を意識して学んでほしい」などと、生徒に学び方について語りかけることが多くなったと思います。

研究場面を想定し、様々な手法でアプローチする科学的な見方・考え方を問う探求的な問題

#### 図4 理科・生物における思考力を測る問題（3学年2学期中間考査）

##### 思考力の定義

自走できる学びを目指し、既知の科学的原理・法則を十分に活用するとともに、仲間と協働して未知の科学現象に果敢に挑む力

##### 授業における言語活動例（キークエスション）

『種』の定義に基づき、かつ種分化の過程（進化の過程）を考慮に入れて類似した2つの生き物が別種であることを証明してみよう

##### 問題

系統分類の考え方では祖先から受け継がれてきた原始形質と種分化によって新たに生まれた派生形質とを区別して考える。派生形質の共通性と相違性を整理することで系統分類が行われる。新たな派生形質が遺伝的に固定されたものであればその形質を持つ生物は新種の可能性が高まる。

また、「種」とは「共通した形態的・生理的な特徴を持つ個体の集まりで、同種内では自然状態での交配が可能であり生殖能力を持つ子孫を作ることができる。」と定義されている。

さらに「ハーディ・ワインベルグ」の法則が適用できるメンデル集団では代を重ねても遺伝子頻度は変化せず進化が起これないことが知られている。

黒蜜田高校の生物部の行信君は学校の近くの流れる六合川で採集したアシハラガニの中に少し変わったカニ（X）が混じっていることを発見した。ネットや図鑑で検索したところ、どこにも該当する種類は見つからなかった。

（問）このカニXがアシハラガニから種分化によって生まれた別種であることを証明するための具体的な手立てについてリード文を参考にして3つ挙げるとともに、どのような結果になれば別種と判断できるかその根拠を簡潔に記述せよ。

##### 採点基準

■手立てについて（3点）

配点	1点	2点	3点
採点基準	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち1つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち2つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち3つを解答している

■根拠について（3つの手立てに対応して根拠となる事項が解答されている。）

配点	1点	2点	3点
採点基準	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち1つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち2つを解答している	形態的視点、生態的視点、遺伝的視点の3つのうち3つを解答している

\*学校提供資料を基に編集部で作成。

より詳しい内容は、

『ハイスクールオンライン』でお届けします！



動画解説



事例・解説

広島県立呉三津田高校の思考力を測る問題、採点基準等を掲載  
横浜国立大学名誉教授・高木展郎先生による「新課程の意味・全体像が分かる！」  
カリマネ・グラントデザイン・指導計画・学習評価の実践ポイント満載